



表紙  
小林英樹 《NOTHING TONIGHT (今晚は何もない)》

## 表紙絵の解説

小林英樹

1977年、ぼくが専修学校、大阪中の島美術学院に勤めたばかりのころの作品である。事務局隣、天神橋のたもとに交番があったが、それが、取り壊された後、地面に交通事故者の数を掲示する数字の板が散乱していた。それを拾って帰り、満足な制作スペースのない神戸の借家で描いたものだ。埼玉県の高校教員を二年で辞め、あらたな生き方を模索しながら家族四人で関西へ移動、NOTHINGという言葉がぼくの頭に浮かんだのは、この作品を描いたとき、おそらく、最初だったと思う。表現するものなんか何もない、それでもいいじゃないか、それでも生きられる！ぼくは呪文のようにNOTHINGを繰り返し唱えていた。作品の背景に貼った二枚のコラージュは、そのころ、何かしなければ、何かをしたい、しかし、何をすればよいかわからない、そういう悩みと葛藤の中で、仕方なしに小さな紙にガッシュや油絵で毎晩黙々と色を置き続けた作品？の断片である。ベッド上の後姿の女性は、ぼくの雑念＝妄想から生まれたものである。NOTHING BUT FINE・・・多分、67歳になったいまも、ぼくの意識の根底にはそれが流れている。何人かの親しき者が去り、ぼくも終わりに近づいてくると、無とか幻とかと同様、長年愛用したNOTHINGという単語が心に優しく響く。なお、NOTHINGとTONIGHTは語呂合わせである。